International Student Center News

金沢大学留学生センター ニュース

vol. 4

March 2001

金沢大学留学生センターのことを留学生の皆さんは知っていますか

留学生センターは、外国人留学生及び海外留学を希望する金沢大学の学生に、必要な教育及び指導助言等を行うことにより、本学における留学生交流の推進に寄与することを目的として、1995年4月に設置されました。つまり、留学生の皆さんに、日本語や日本文化を勉強するプログラムを提供したり、留学生活や勉強に関わる様々なアドバイスを行ったりするのが私たちの仕事なのです。

今回のセンターニュースでは、このような私たちの仕事を留学生の皆さんに理解していただくため、留学生センターの関わる5つのプログラムと指導・相談部門の簡単な説明、および、日本語研修コースの「ハイブリッド・ドラマプロジェクト」と短期留学プログラムの「武道（柔道）」の紹介をしたいと思います。

なお、留学生センターについての情報は、金沢大学留学生センターのホームページに公開しています。アドレスは、http://www.kanazawa-u.ac.jp/ryugaku/（日本語版）、およびhttp://www.kanazawa-u.ac.jp/ryugaku/eg/luisc.html（英語版）です。本年4月から、これまでよりも頻繁に更新することが可能になり、留学生の皆さんに、より多くの重要な情報をより早く提供できるようになるのではと私たちも期待しています。ぜひ一度訪れてみてください。

留学生のみなさんへ…… 1
プログラム紹介…… 3
日本語研修コース
日本語・日本文化研修コース概要
総合日本語コース
金沢大学短期留学プログラム
日韓共同理工系学部留学生コース
外国人留学生の相談と指導
日本語研修コース：
ハイブリッド・ドラマプロジェクト…… 9
短期留学生プログラム：
柔道「武道」について…… 10
スタッフ紹介

留学生センター長
大橋 信喜美

留学生の皆さんへ

10万人計画を掲げて政府自らが留学生受け入れ政策を進めているわが国にあっては、外国人留学生は、やはり、特別の存在であります。わが国が留学生を受け入れることの意義は、言うまでもないことですが、これが引いては、戦争のない世界の構築に資すると考えるからにほかなりません。留学生センターが中心となって、留学生の皆さんに日本の伝統や日本の文化を紹介することを積極的に行っているのは、これが、文化の違いから生ずるさまざまな摩擦を和らげることに役立つと考えるからであります。留学生センターが金沢大学の教育と取り組みの一翼を担って、留学生の皆さんに対する日本文化紹介に力点を置く所以であります。留学生センターに身を置く者ならずとも、留学生の皆さんが本学で学ぶ中で多くの人と出会い、心を通じ合い、国際交流の架け橋となっていただくことを、願っております。

様々の面で揺れ動き、不透明感の強い今日の日本社会ですが、留学生の皆さんにもその事を身をもって感じていただき、率直な意見、感想を伝えていただきたく思います。率直に意思を伝え合うことで、異文化間の摩擦の痛みも次第に分かるようになるものと思います。異国の文化や習慣を許容することは言うほどには易いとは思いませんが、耐えられないほどのものではないと感ずることが、国際交流の出発点であると、私は考えます。ともあれ、留学生の皆さんには、大いに学び大いに遊びこの国（日本）のこと、この町（金沢）のことを存分に感じ取って、日本に留学した確かな証を体得していただきたく思います。留学生センターは皆さんの活動を応援するところです。本学での留学体験が、皆さんの祖国での、あるいは、世界での活躍に役立つものであるようにと心して対応しています。どうか、おおいに、活用してください。

この3月末をもって、私は、センター長の任を終えます。センター長を拝命して以来の3年間、多くの人に助けられながら、また、多くの留学生とのすばらしい出会いの中で、務めさせていただきました。ここに、感謝の意を表するものであります。

留学生の1年間

努力と達成感

プログラム紹介

日本語研修コース
Intensive Japanese Language Program

日本語・日本文化研修コース概要
Japanese Language and Culture Program

総合日本語コース
Integraiod Japanese Language Program

金沢大学短期留学プログラム
Kanazawa University Student Exchange Program
(KUSEP)

日韓共同理工系学部留学生コース
Japan-Korea Cooperative Program
for Science and Engineering Students

外国人留学生の相談と指導
Counseling and Guidance for Foreign Students

日本語研修コース

主に大学院レベルの国費外国人留学生（研究留学生及び教員研修留学生）を対象として、日本での研究活動に必要な日本語能力を習得するため、6カ月間で集中的に日本語を学習するコースです。前期（4月～9月）と後期（10月～3月）に開講し、世界各国からの外国人留学生が週5日（1日8時間）、日本語の勉強に励んでいます。

このコースでは、財日本国際教育協会及び国際交流基金で定める日本語能力認定基準の3級レベルの日本語能力を習得すると同時に、研究者としてふさわしい日本語を身につけることも目標にしています。さらに、専門分野での活動を視野に入れた訓練（日本語コンピュータソフトを使った計算・作図、アンケート調査に基づく口頭発表プロジェクト、ドラマ発表等）を行っています。

なお、異文化適応を促進するために、お茶、お花、書道、日本の歌や工場見学等のプログラムを実施するとともに、地域や日本人学生との交流も課外活動として行っています。

Intensive Japanese Language Program

This is a preliminary Japanese language program designed for Japanese government scholarship holders who wish to study at a graduate school for the purpose of doing research in Japan. It is a six-month intensive program, which goes on for two semesters : spring semester (April-September) and fall semester (October-March). Classes are held 5 days a week, 8 hours a day. This program aims to improve student's Japanese skills to a level equal to that of Level 3 Japanese proficiency, authorized by the Association of International Education Japan and The Japan Foundation. In addition to the standard Japanese classes, students will be given training on oral presentation in Japanese. Since program participants consist of foreign students from all over the world, they are given the chance to experience the rich culture peculiar to Japan. Tea ceremony, Ikebana, calligraphy, Japanese traditional songs, field trips and other intercultural activities organized by the local community are a few such examples of extracurricular activities.

日本語・日本文化研修コース

コース概要

日本語・日本文化研修コースは、海外の大学において日本語、または日本文化関係分野を主専攻、または副専攻とする、そして日常生活に必要な日本語能力を有する学生を対象にしています。日本語能力の向上、日本文化、日本事情への理解をコースの主な目的としていますが、各学生の専攻に応じた専門科目の履修も可能です。

日本語の授業は総合日本語コースに編入し、週5科目を履修します。日本事情科目は週2科目履修しますが、本年度は金沢の歴史と文化、政治、経済、産業、生活、言語、文学、教育、伝統芸能、宗教などのいくつかの観点から日本人の考え方を考察するプログラムを実施しています。各セクションにおいて発表や討論会も組み込まれており、学生の積極的な参加が求められています。

日本文化体験、及び日本人との交流活動

日本文化に直に触れることを目的として、金沢の豊かな伝統文化を生かした、茶道、華道、陶芸、七宝焼き、和菓子作り、お座敷宴、俳句作り、祭り参加などの体験を実施しています。その他に、美術館や工場の見学、学校訪問などの実地見学も行います。

現在、国際交流の推進に努めている金沢大学の日本人学生が日本語・日本文化研修生のボランティアチューターをしています。発表やレポートのチェックなどの勉学のサポート、及び生活のサポートのみならず、各国料理のクッキングパーティーなどの楽しいイベントも開催されます。その他に、地域住民との交流を目的に、各学生に里親家族を紹介しています。

Japanese Language and Culture Program

This one-year program sets its goal as improving the Japanese language ability of students and enhancing their understanding of Japan. In order to take this program students must satisfy the following requirements.

- Be undergraduate students belonging to a foreign university
- Be government scholarship holders
- Students majoring in Japanese language or Japanese affairs

This program consists of Japanese language (6 hours a week), kanji classes (2 hours a week) and Japanese culture and affairs classes (4 hours a week). The later consists of a series of lectures given by Kanazawa University professors on subjects related to Japanese lifestyle and society. Furthermore this program aims to enhance students understanding of the history and traditional culture of Kanazawa City by arranging craftsman with specialized skills to give lectures.

Each student is required to choose his or her research topic and submit a report on what he or she learned during the year.

総合日本語コース

基本的に、本学に在籍する外国人留学生全員を対象としたコースで、前期（4月～9月）及び後期（10月～3月）に開講し、初級から上級まで各自の日本語能力に合わせた多様なクラス編成となっています。

このコースには日本語クラス・漢字クラス・技能別クラスがあります。技能別には、初級の会話、中級以上の新聞読解、作文、聴解等のクラスなどがあり、きめ細かい指導を行っています。

Integrated Japanese Language Program

This program is designed for all foreign students studying at Kanazawa University. There are two semesters : first semester (April - September), second semester (October - March). There are a variety of classes from beginner's to advanced levels divided according to the proficiency level of students. Moreover, students can choose general Japanese classes and categorized ability classes. Categorized ability classes include a beginner's class for conversation and intermediate or higher classes for newspaper reading, composition, listening, etc. Thus, students can select appropriate levels to fit his/her needs in each area.

金沢大学短期留学プログラム (KUSEP)

このプログラムは、金沢大学と交流協定を締結している大学等から留学生を受け入れ、日本語教育、英語による日本事情・日本文化及び各専門分野の授業科目を提供する、半年または1年間の特別のプログラムです。

プログラムの教育を通じ、また広く世界の学生との交流を進めながら、日本への理解を深めていくこと及び国際社会で活躍する人材に育つことを期待しています。

さらに、この短期留学をきっかけとして、日本に関する研究あるいは金沢大学で専門的な研究に取り組む動機となることも期待しています。

Kanazawa University Student Exchange Program (KUSEP)

The Kanazawa University Student Exchange Program (KUSEP) was founded to provide Japanese language education and lectures in English on Japanese affairs and culture, and various other fields of specialization for foreign students from overseas universities affiliated with Kanazawa University. Through this program we would like to promote cultural exchange among students from all over the world and Kanazawa University. We also hope that they will deepen their understanding of Japan and use the knowledge they acquire through this program in the international arena.

Furthermore, we hope that through KUSEP, students will be motivated to later continue to study Japan-related matters or their field of specialization at Kanazawa University.

日韓共同理工系学部留学生コース

本コースは、韓国の高校で優秀な成績を収めた工学系志望の高校卒業及び卒業見込み生を直接予備教育の時点から金沢大学に受け入れるプログラムです。

候補学生はまず韓国国内の該当高校から推薦を受けた上で韓国側主催の第1次選考によって選ばれます。選抜された候補学生は韓国内で3月から半年間日本語教育と専門教科教育（数学・物理・化学）と英語教育の予備教育を受けます。そして8月上旬に今度は日本側主催の配置試験を受けて本学への受入れが決定してから10月に来日し、翌年の3月まで留学生センターで日本語教育と専門教科教育を中心とした予備教育が行われて、4月から本学工学部に1年生として入学するという仕組みになっています。金沢大学では初年度は最高5名までの受け入れを表明しましたが、将来的には10名までこの受入枠を増やす予定です。

本学での予備教育の内容は、日本語教育（含む専門日本語教育）、日本事情見学、ホームルーム、専門教科教育から成っていて、留学生センターと工学部が中心となって全学協力体制で行っています。日本語教育は午前中6時留学生センターの「総合日本語コース」を受講し、午後からこのコースのため新たに授業が開設されます。また週に1回は金沢の町に出ていろいろな伝統文化に触れたり、地元の企業を訪問する機会も設けられています。専門教育では工学部の協力により、韓国での専門教育から金沢大学工学部1年次の授業への橋渡しとなるような授業が行われます。またホームルームでは学生の学業面や精神面でのケアやサポートを行います。

Japan-Korea Cooperative Program for Science and Engineering Students

This program is for exceptional Korean students who have graduated (or are about to graduate) high school that intend to study engineering or science as undergraduates, and accepts them directly into Kanazawa University from the beginning of their preparatory education. Students participating in this program, after being recommended by their high schools, must pass the first-stage of selection, which is completed in Korea. Students who pass this stage then begin preparatory education from March for 6 months to learn Japanese, English, and take classes related to their future majors (specifically, math, physics, and chemistry). In August, another test is held to determine the placement of the students at universities in Japan (in our case, the faculty of engineering). After arriving in Japan in October, they will be temporarily placed in the International Student Center to continue their preparatory education, focusing on Japanese language and education in their majors. Then, next April, they will enter the faculty of engineering as first-year students. At Kanazawa University, 5 students will be accepted into the Faculty of Engineering the first year, with plans to increase this number to 10 in the future.

At Kanazawa University, the students will take preparatory classes under the support of the entire university, but primarily supported by the Faculty of Engineering and International Student Center, including Japanese language (including Japanese specific to their majors), observation of Japanese affairs, a 'homeroom', and major-related classes as described above. During the morning, the students will participate in classes from the ISC's Integrated Japanese Language Program, and take courses specifically designed for them in the afternoons. We also plan to devote approximately one class per week to experiencing the traditional culture of Kanazawa City, or to visiting local industry and businesses. For major-related classes, the Faculty of Engineering is currently designing a program of courses to bridge any gaps in learning between their Korean high school education and their future majors, in order to insure a smooth transition to their beginning here as first-year students. In the 'homeroom', support will be provided for both the student's academic and counseling needs.

外国人留学生の相談と指導

留学生センターでは、主として本学で学ぶ外国人留学生に対して、その留学目的を遂行することはもちろん、日本での充実した留学生活を送るために、アドバイスやカウンセリングの機会を提供しています。

☆外国人留学生に関わる相談

☆その他学内の外国人留学生支援組織との連携

☆適時、相談を受け付けています

Counseling and Guidance for Foreign Students

The International Student Center provides counseling and guidance for foreign students studying at Kanazawa University to help them enjoy their life in Japan while achieving their academic goals.

☆Counseling related to foreign students

☆Linkage with foreign student support organizations on campus

☆You are welcome to contact the counselor

日本語研修コース：ハイブリッド・ドラマプロジェクト

日本語研修コース（大学院予備教育日本語集中コース）では、通常の日本語授業の傍に、専門への橋渡しとしてのプロジェクトワークを行ってきました。1995年に始めた口頭研究発表プロジェクトと1999年に始めたドラマプロジェクトです。

今回はドラマプロジェクトを紹介します。このプロジェクトは、1999年後期の留学生が第1回目を、2000年後期の留学生が第2回目を行いました。

ドラマプロジェクトは、一人一人が別々に調査・研究と報告をする口頭発表プロジェクトとちがって、全員で協力して行うプロジェクトです。日本語中級の留学生が調査・研究をして報告します。その報告の中で、日本語初級の留学生が報告の内容を説明する寸劇（ドラマ）を演じます。このプロジェクトを行う留学生には一体感があります。日本事情の研究と報告、動作学表情を含んだ日本語の表現が一体となって、ひとつの発表になるのです。その意味で、研究報告と舞台表現をあわせた「ハイブリッド」なドラマプロジェクトと名付けました。

研究の素材となったのは、漫画『サザエさん』です。「日本の家族像」を大きなテーマにしています。第1回目の小テーマは、「夫として、父としての男性」、第2回目は「サザエさん」の言葉遣いから見た夫と妻の距離感」でした。

第1回目の研究結果では、日本の男性は家庭の中で権威をもっていると思われていても、実はその権威は女性に支えられてきたこと、現代の若い世代は家事や育児をする男性を男らしくないとは思っていないことなどがわかりました。

第2回目の研究調査では、「サザエさん」に出てくる昭和30年代の妻は、ふだんは夫に対する心理的な距離を近くしていますが、丁寧な言葉遣いを意図的に用いることで、怒ったときや、頼むとき、叱るときなどに距離感を操作する（遠くする）ことができるようだということがわかりました。これに対し、夫はいつも近い距離で妻を認識しているため、妻との距離を意図的に操作することはできないらしいということもわかりました。また、アンケート調査から、世代が下になるにしたがって言葉遣いによる距離感の操作はしなくなっていることもわかりました。

寸劇（ドラマ）は第1回目は12幕、第2回目は14幕でした。ドラマグループの留学生たちは何度も何度も練習しました。人数が少ないため、男の人が女の人の役を演じる幕もありました。留学生には日本語の発音も動作や表情もなかなか難しそうでした。研究調査グループの留学生たちにとっても、パワーポイントでスライドを作る作業、発表原稿を良い発音で読む練習、スライドと発表のタイミングを合わせる練習など、苦労がありったようです。

発表会は大学教育開発センターで行われました。大会議室の前方に舞台を作って、その横に研究報告のための演台とスライドを映すスクリーンを置きます。調査研究グループが報告をして、その説明としてドラマグループが寸劇（ドラマ）を演じるのです。

発表会には、大学関係者のほかに、ホストファミリーのお父さん、お母さんや、地域の方々も見に来てくださいました。大勢の観客の前で留学生達は緊張していましたが、立派に報告し、演じることができました。全員で協力して楽しくひとつの発表ができたことが大きな収穫だったと思います。

このコースでは、2001年度後期に第3回目のドラマプロジェクトを行う予定です。（前期には、口頭発表プロジェクトを行います。）

（三浦　香苗）

短期留学生プログラム：杖を使う武道「杖道」について

武道という概念に含まれるさまざまな日本の「武の道」はすでに国境を越えて世界中に普及している。そのうち、空手道や柔道、合気道はよく知られており、また人気を呼んでいる。剣道や居合道の愛好者もずいぶん増えているが、杖道はほとんど知られていない。私も日本にくる前にこの杖を使う武道については聞いたことすらなかった。そこで、杖道の簡単な紹介を兼ねて、留学生に武道を体験させたいと考えた理由と、杖道のもつ魅力や意義について述べてみたい。

杖道は夢想権之助勝吉という人物により、今より約400年前に創始された。権之助自身は、剣客でもあったし、有名な剣客と数多く試合をし、敗れたことがなかった。ある日、二刀流の著名な宮本武蔵と試合し、武蔵の十字構という技にかかり、押すことも引くこともできなかった。武蔵は、その時代には珍しいことであったが、そこで試合をやめ、権之助の弟子になった。のち、権之助は諸国を渡り、武蔵を打ち破る修行に専念した。伝説によると権之助の夢の中に童子があらわれ「瓦木を見て水目をしれ」と教えたという。権之助は様々創意工夫し、四尺二寸一分（約128cm）、直径八分（約2.4cm）の樫の杖を作った。そして槍、薙刀、太刀などの武器を模倣した杖道を編み出し、遂に宮本武蔵の十字構を破ったと伝えられている。

私は20年前、出身地ドイツで、空手道の技にひかれ、一つ目の武道をやり始めた。大学生だった1990年に初めて来日し、そこではじめて出会ったのが、「杖道」だった。初めてその演武を見た時、技の美しさはもちろんだが、特にその気道や精神性、つまり心の表現に強くひかれた。もちろんほかの武道にもこれらの点は見られるのだが、それまでヨーロッパのいわばスポーツ化された武道に接してきた私には、杖道がとても簡素深く魅力的に思えた。それ以後、先生方のご好意もあり、私は杖道にチャレンジし続けている。ドイツに一時帰国した時期や再来日を経て、あれから早10年。今でも私は杖道の気道のすばらしさや内面的な心のあり方に強くひかれている。それはなぜなのだろうか。

それは、杖道の稽古、ほとんどの稽古が相手と組んだ儀式的な「型」として行われることに理由があると思う。現在の武道では、型を重視しない傾向すら見られ、相手に如何に「試合」で勝つことができるかという観点から、いわゆる勝負に勝つ気力や技術、体力が大事にされ、「自分自身への磨き」や「自己の内面を成長させる」という考え方は軽視されてきているように見える。

考えてみると、万が一相手との対戦を避けられない場合、相手の動きや意志が「月のうつりが水の上にうつる」と同じように表れないと、相手に応じられないという。ただ試合に勝つという思いの技の練習と相手に対する徹底的な「型」として行われる技には大きな違いがあるように思う。

武道は、試合で相手に勝つことばかりではなく、それ以上にいろいろ学ぶことができる。たとえば自分との戦いが如何に大事かということは、剣の達人柳生宗厳の名言と言われる「人に勝つ道は知らず、我に勝つ道を知りたり」がよく表す通りである。つまり相手と勝負する前に、自分のことを知り尽くす必要性が求められる。もう一つの格言を加えよう。「孫子曰く、彼を知り己を知らば百たび戦ってあやうからず、彼を知らずして己を知るものは、一たびは勝ち一たびは負く、彼を知らず己を知らざらば戦う毎に必ず危るなり」。

愛は、どの武道でも同じであろうが、その一つに真剣に取り組んでみると、武道の本質とさ

れる「心技体」の密接不可分な統一という課題に直面する。それぞれの「武の道」の本来の目的は、ただスポーツ的な勝ち負けの成績だけを結果として求めるものでなく、その段階を越えて、人格の完成につながるものでなければならないと思う。武道の修行はただの力比べでもなければ、技術や身体的な能力の向上、肉体的な鍛錬を目指すことだけではない。心の能力、すなわち内面的、精神的にも向上した状態をつくりあげることである。

私は日本に来てさまざまな「武道」を修行していくにつれて、その内面的な部分が特に重要であり、そして現代社会に欠けているのはまさにその部分なのではないかと考えるようになった。めまぐるしく情報が交錯し、表面的なことだけが大切なように見なされて進んで行く現代社会の中では、「道」のように内面を深く追究することがいっそう重要になっているのではないかと思われる。武道の修行の中では、例えば相手に対する尊重の念や礼儀作法が自然に身につく、あるいは人への思いやりが生まれてくる。

私は日本の伝統文化の一つである武道の「心技体」の統一をめざすあり方に深く魅せられている。剣道を共に行う中で、私はこの魅力を留学生にも少しだけでも伝えたいと考えている。留学生が自ら体験し、その上で、日本の伝統文化観への理解を深めてくれることを願っている。

（ビットマン　ハイコ）

Christopher Aaron HITZEL
(United States)

Jôdô

The KUSEP Jôdô course provides an excellent opportunity for students to experience Japanese traditional culture in an involving manner, by practicing a martial art and studying the aspects that define it as such. Through the Budô course, a student may learn about technique, practice, and application, as well as gain a further understanding of Japanese principles of respect and introspection. In this way, subject matter spans from physiology and the ways of moving and using the human body, to psychology and ways of using the human mind.

From the perspective of having practiced a martial art before coming to Japan, I find that the atmosphere of the Budô class provides a number of advantages over a dôjô environment. By approaching training from a rather scholastic perspective, analysis of technique and the underlying theories is more easily accomplishable, as well as being a providing a setting more open to the asking of questions. Also, the pressure of performing in tournaments and other more modern manifestations of the martial arts is absent, thus allowing what could be called a more old-fashioned or traditional training experience. These aspects put together provide the student with an excellent opportunity to expand his/her understanding of the martial arts and many other distinct elements of traditional Japanese culture.

The effects of these pursuits are not limited to within the classroom walls. By learning more about principles of respect and awareness of oneself, benefits can be reaped in one's interactions with other people and attitudes towards other studies. By learning new ways of interacting with the environment around us all, one can come to a deeper understanding of personal capabilities, both physical and mental.

The benefits of pursuing a further understanding of Budô principles far outweigh any potential difficulties. The controlled environment of the Budô class provides opportunity for experienced and inexperienced, men and women alike. It can be a life changing experience, at the very least providing one with a new perspective.

Oliver SPANG
(Germany)

Budô Experience

Japan is for me one of the most interesting countries in the world and I am very interested in sports too. In Budô however I can practice not only sport. In fact, Budô provides sport for both the body and parts for the mind. I started practicing Kendô and Jôdô 5 months ago at Kanazawa University. It was and is a good way, to learn and understand the way of thinking of the Japanese. One of the reasons for me being here in Japan. If I am back in Germany, I will continue the Budô training.

Taneli TAKALA
(Finland)

On the Way

It is often that I have head that the way of the martial artist is a long and hard one. For me it has not been long, not yet. At times it has been hard, but most of all it has been very rewarding. Practicing Budô has given me a better sense of myself, a better sense of movement of the body and, more importantly, of the mind.

For me Budô is also striving for personal perfection. A sensei, who is in his 60's and has practiced for roughly 50 years, says that he practices every day and learns new things on each of them. Thus, perfection should not be seen as a finite goal, but rather as the reason for pushing oneself further, constantly.

The most important thing in Budô for me is learning, not only about what I mentioned above, but also about the past, tradition, and respect for others. I believe that the reward of knowledge is well worth the time and energy put into practicing Budô, and that is why I want to see myself continuing on the Way as an older and, hopefully, wiser man.

スタッフ紹介

大橋信義（留学生センター長）

留学生、国際交流、国際性は本学の重要なキーワードです。留学生センターが本学の国際化の核となるようにと願っています。

岡沢　孝雄

海外の協定校から1年間の留学生を受け入れる短期プログラムを担当しています。専門は微生物ですが、特に病原の遺伝に関係する細菌毒素の性質に興味を持っています。趣味は自然の中を歩き回ることです。

三浦　香苗

留学生教育は、留学生だけではなく、日本人学生にも関わることだと思う今日この頃です。学生だけでもなく、大学教職員も、地域の人人も子供も。そして、留学生の皆さんが留学の目的を達成して、幸せな気分で帰国できるように、私も頑張ります。

八重沢美知子

心理学の勉強をしていた学生時代、留学生のクラスメートがいました。日本、様々な文化と接する機会が増え、文化と人間関係のあやかりに興味を持つようになりました。異なる文化背景を持つ人たちとの出会いを楽しみにしています。困った時だけでなく、話し相手が必要な時にはいつでも連絡してください。

峯　正志

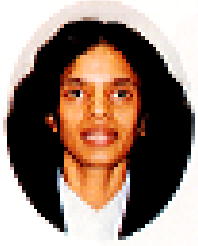
峯正志と申します。長野先生と共に総合日本語コースを担当しています。金沢で日本語を教えてもらう4年です。専門は言語学で、いろいろな言語に興味があります。本当は日本語を教えるより、外国語を学ぶ方が好きです。

矢田　守

日韓共同理工系学部留学生コースを担当しています。このコースも今年で2期目を迎えます。第1期の反省を踏まえて、より良いコース作りに取り組んでいこうと考えています。どうぞよろしくお願いします。

長野　ゆり

私も昔、留学していたことがあるので、留学生の皆さんの気分はよくわかります。皆さんに「楽しかった、日本に来てよかった！」と言ってもらえたら、とても幸せです。そう言ってもらえる教師を目指します。



パリハワダナ　ルチラ

日本語・日本文化研修コース（日研生コース）を担当しています。金沢大学での留学経験が皆さんにとって有意義なものとなるように出来る限りの手助けをさせていただきたいと思います。様々な背景を持つ皆さんの豊かな経験を糧にして、教師としてのみならず人間としての自分も磨いていきたいです。

ヒルマン小林　恭子

毎年10月に金沢大学のアメリカの協定校、ウィリアム・アンド・メアリー大学から1年間の予定でやって参りました。日本人の私でも、日本の伝統文化を大切にしている金沢で、いろいろなことを毎日学んでいます。キャンパスで私を見かけたら気軽に声をかけてください。

ビットマン　ハイコ

今年から留学生センターの新しい教官になりました。金沢大学短期留学生プログラムを担当しています。金沢大学に勤務した経験を生かし、留学生の方になりたいと思います。専門は日本学とスポーツ科学、特に武道です。興味のある皆さん一緒に勉強しませんか。

金沢大学留学生センターニュース　第4号

2001年3月30日発行

発行　金沢大学留学生センター
〒920-1192　金沢市角間町
TEL　0761　264－5188
FAX　0761　234－4043